

安栄鉄男教授・後藤 弘教授退職記念号によせて

札幌学院大学人文学会長・人文学部長

廣 川 和 市

長年にわたり、本学の研究・教育の発展にご尽力なされた本学部のお二人の教員、安栄鉄男教授ならびに後藤 弘教授が、本年三月をもって定年を迎えられ、ご退職なされました。本学部のみならず、本学は大切な方々を専任の構成員から失うこととなりました。ここに、記念号を編み、安栄鉄男・後藤 弘両教授に捧げます。

安栄鉄男・後藤 弘両教授は、長年のご功績により、今春、ともに本学名誉教授の称号を授与されました。

安栄鉄男名誉教授は、北海道大学医学部助手を経て、本学の前身＝札幌商科大学の創設要員として着任されました。仄聞によれば、開学直前から創設の準備活動に参加されました。以来、安栄名誉教授は、教育学修士を経て医学博士となられたというご経歴にみられるように、三十六年の長きにわたり、本学において教育衛生学ならびに保健体育理論の分野を中核に本学の研究・教育の発展の重要な一翼を担ってこられました。ご研究の分野では、疲労に関する研究、とくに疲労の生理学的評価の一環として、主に精神的負荷および肉体的負荷による生体的機能の変動の問題に取り組まれております。このようなご業績をもとに学界の分野でのご活動は、日本運動生理学会評議員等を務められました。安栄名誉教授は、創設後の苦難の一時期に理事として経営に参画されるなど本学園とともに歩んでこられました。

後藤 弘名誉教授は、酪農学園短期大学専任講師を経て、本学部教授として着任されました。以来、四半世紀近くにわたり、本学において英語学ならびに英語教育の分野を中核に本学の研究・教育の発展の重要な一翼を担ってこられました。着任された時期は、あたかも本学部の英語英米文学科が完成する直前であり、後藤名誉教授は、学科の創設の要員のひとりとして今日の学科の基盤を築かれるとともに、また中学校および高等学校の英語教員の育成にもご尽力なされました。後藤名誉教授は、ご研究の分野では、データにもとづく実証的語法研究と、理論にもとづく統語論の研究との両面から現代英語の語法と統語論の問題に取り組まれております。これまでのご研究の現時点での集大成として、今般『現代英語の文法と語法—実証的研究—』が上梓されたところでもあります。

安栄・後藤両名誉教授は、お二方ともに本学部・本学に深い愛着をもたれ、その一斑は教授会等でのご発言での筋を通した直言と助言にみることができます。いろいろな意味での「大学の危機」が叫ばれる今、私どもはあらためて安栄・後藤両名誉教授の足跡に思いをいたしたいと存じます。

安栄鉄男名誉教授ならびに後藤 弘名誉教授が長年、本学部・本学および学生にそそがれた、ご尽力に対して改めて敬意と感謝の念を表し、今後の益々のご活躍を祈念いたしますとともにかわらざるご嚮導を賜るよう心からお願い申し上げます。

2004年12月